

KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報67号

編集責任者: NPO 法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 相川 裕
 事務所: 〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
 電話・FAX: 0467-85-6660 直通電話 090-4937-4904 定価 30 円
 ホームページ: <http://www.npo-snet.com> eメール: info@npo-snet.com



第22回 定期総会のご報告

特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマンでは、2022年5月21日(土)に、茅ヶ崎市総合体育館において、第22回定期総会を開催いたしました。

総会では、2021年度の活動報告・決算報告と、2022年度の活動計画・予算計画が説明され、いずれも満場一致で承認されました。

また、今年は理事改選の年(任期2年)にあたり、右表の通りの方々を選任いたしました。

改選後、直ちに臨時理事会が開催され、互選により、理事長に相川裕さん、副理事長に佐川美智子さん、三谷智百合さんが選出されました。

朝倉新さん、角田郁夫さん、藤本直也さんが任期満了にて退任されました。

長年のお働きに感謝申し上げます。

理事・監事名簿(敬称略)		
役職	氏名(住所) [各五十音順]	備考
理事長	相川 裕 (横浜市)	Sネット
副理事長	佐川 美智子 (茅ヶ崎市)	Sネット
副理事長	三谷 智百合 (藤沢市)	Sネット
理事(再)	上杉 桂子 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事(再)	江崎 康子 (藤沢市)	Sネット
理事(再)	大石 剛一郎 (川崎市)	Sネット
理事(再)	小野田 智司 (藤沢市)	Sネット
理事(再)	小野田 潤 (茅ヶ崎市)	地域
理事(再)	高崎 義裕 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事(再)	高橋 健一 (茅ヶ崎市)	地域
理事(再)	高山 直樹 (藤沢市)	Sネット
理事(新)	武山 育子 (茅ヶ崎市)	Sネット
理事(再)	増藤 純 (茅ヶ崎市)	地域
監事	山下 和男 (横須賀市)	Sネット



[用心深くコロナ対応をし、集合による開催を致しました]



《 理事長挨拶 》

相川 裕

長引くコロナ禍ではありますが、活動を続ける中で、気づくこと、学ぶこと、腑に落ちることはいろいろとありました。

昨年度のことの一つあげると、「WISH(希望・願い)はどのようにして形成され、見出されるものなのか」ということがあります。

昨年の内部研修(「WISHの形成・表明に支援者らはどう取り組むべきか?」)において、講師の池原毅和弁護士は、人間が相互依存的・対話的存在であることをふまえ、支援と意思の関係について、「埋もれた意思の掘り起こし」ではなく「対話による意思の形成」である、というイメージを提示しました。これをきいて私は、これまでにSNETが積み重ねてきた実践に的確なことばを与えられ、かつ、これからの実践の指針を示された、と感じました。

当事者の方々とのものも含め、「対話」が、多様性を尊重し民主的運営を旨とするこの法人にとってとても大切なものであると、改めて考えています。

今年度も、オンブズマン活動宣言で述べた理念をふまえ、ささやかながらもさまざまな気づきや学びに彩られた活動を、楽しみ味わいながら、続けていきたいと思えます。

多くの方々にご支援・ご協力、あるいはご参加いただきたいと願っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(以上)



オンブズマン会議から

オンブズマン会議では、前月の活動報告をして、面談をした折のエピソードなどを語り合います。レストランのメニューを書く方に食べ物の絵本を見せたら、アイスクリームのページをパッと開けてジッと見ていたとか、構音障害の方がスマホを駆使して話をされるとか、質問をするとノートに大きな文字で返事を書いてくださるとか、ひたすら電車の新型車両について話される方に負けじと調べて電車の話をしたらそっぽを向かれてしまったとか、お出かけや外食の話をする方に観光マップを見せたら、しっかり「ここ」「ここ」と指差し、すっかり地図にはまってしまわれたので、次は日本地図を持って行くとか、筆談を好まれる方に質問用紙を用意して渡したら答えを書いてくださったなど、其々のコミュニケーションの工夫に刺激を受けています。

オンブズマンとの会話を楽しみにして、必ず面談に来られるという方が、それぞれの施設に何人かいらっしゃいます。その中のお一人で、長い間「缶の冷たいコーヒーおいしかった。良かったですね。そうですね。」という型にはまったフレーズを話され、代々のオンブズマンがその話を引き継いできましたが、最近の報告ではそのフレーズが減少し、実家のお店や子どもの頃の話が次々とされるようになりました。

現在の担当オンブズマンの上手な質問に感心しきりですが、その変化は、数年前の担当者が、その方の70才の「古希のお祝い」を提案して、お住まいのグループホームがお祝いの会を開いたことから始まりました。オンブズマンとの会話が、会話のための会話から、生活や想いとつながったものとして実感されたのではないかと思います。

オンブズマンと会話をすることで、想いを整理し、自分で答えを出して、支援者にも理解され援助されながら前に進んでいかれる方もおられ、その姿に感動させられます。



(江崎康子)



『トビラが開くまで。～コミュニケーションはあとから～』



『こりあムリ』というあきらめから始まって、今に至って足掻くのもやめ、受け身を目指している。

主題らしき『困っているコト』を話してもらって受け身を基本型にして、『お昼ごはん、美味しかった?』を導入としながら会話を成立させていくテクニックのさまざまをヨコの先輩たちから学び続ける。

約30か月のあいだに本当に困っているコトに遭遇したのは少ないが、いずれも我々に話さなければ、ずっと問題にも解決手法にも出会わなかったと思われた。

よくぞ話してくれたと思う。

弁当のコロッケでも、釣りの撒き餌のことも、得意なカラオケが話題でも、話す場と相手がいると分かってもらうだけにとどめていけば、トビラはあちらから開いてくれるだろう。

アブナイじいさんにならなければ、きっとトビラは開く。開かないとき、開いたフリ、それらも個性の一つなのだと思える。

困った話しは、開いてからゆっくり聞いていっしょに悩んで、いい方法を話しあおう。

プロは世の中にたくさんいる。こちらは、情報をプロへつなぐ素人だし、あっさりすっきり解決することはムリだから話すだけ調べただけと伝える。

誰だって知らない人には話さないんだから、話してくれた気持ちに感謝。

(伊藤裕章)



『コミュニケーションについて』

*顔を覚える

電車の隣に座った他人とでも記憶に残るような会話をする事が出来るのに、オンブズマンが月に1度施設訪問をして、メンバーさんに顔を覚えてもらい、困り事を打ち明けてもらうまでにはかなりの時間が必要だ。オンブズマンとメンバーさんが互いに顔を覚えて「知っている人」にならないと気持ちのこもったコミュニケーションは続かない。

*社会と繋がる

「当事者が何に困っているかを知れば介護する人も本人も楽になる」と認知症の本にあった。意思疎通の難しい方のしぐさや表情からその方の気持ちを知るために精一杯想像力を働かせるが、オンブズマンの聞き間違い、ジェスチャーの勘違いに、メンバーさんがもどかしさを感じているのがわかる。それでも繋がりたい、力になりたいとオンブズマンは思っている。



*障がい者と孤独

障がい者の中には思いを表出する手段が少なくてコミュニケーションが取れない(わかってもらえない)辛さを感じている方も多だろう。孤独は人生の友達だとも思うが、望んで孤独を選んでいるわけではない方には、「ここにいるよ」と声をかけ続けたい。

(武山育子)



〈心を込めて、心を寄せて ～ オンブズマンの二十年 ～〉

私たちは、毎月の訪問で面談を希望する方とお会いします。
顔見知りの友人に会ってお喋りをするように、私たちとの会話を楽しむ方もあります。
まず、私どもに対して信頼していただける関係づくりが基本です。
その方を大切に思っている気持ちは、伝わっていきます。
気掛りになっている事、困っていること、悩んでいることをお聞きします。
その悩みごとを解消するために、了解を得て施設側に伝えていきます。
話し終わった方が明るい表情になられるのを見て、私たちは安心します。

だいぶ前の話ですが、ある入所施設で、親御さんに「S ネットのオンブズマンですが」と声を掛けたところ、その方からの長いお叱りの言葉を、お聴きすることになりました。

「私はS ネットが大嫌いです。何故って、S ネットはこの施設を否定するからです。私たち親たちがこの施設を作ったのです。初めは何も無くて必死でした。泊りがけで夢中で動きました。スタッフ達と親達とみんなで頑張って作ったものです。足りない物だらけでも、自分たちの子ども達にとって、少しでも良い施設を作りたいと皆で頑張って作った所なのです。此処で働いているスタッフは、全国の何処の施設に行っても胸を張れるような支援をしていると、毎日のように訪問する私は見て分かっています。それをS ネットのオンブズマンは利用者の声だと言って批判ばかりするので嫌いなのです。」と。



私は、その方の熱い思いをしっかりと受け止め、その上で、親御さんが苦勞をして作られたこの施設の法人が、人権や利用者の権利を尊重して、ご自分たちの支援が独善になっていないか、権利を侵害していないか、知らずに虐待をしてしまっていないかという事を確かめるために、利用者の側に立って利用者の声を聴き代弁をする「利害関係の無い第三者であるオンブズマン」を導入して、敢えて批判や意見を聴き、S ネットと協働してより良い支援につなげて行こうとしておられるのですという説明をさせて頂きました。

コロナの感染予防のために、家族が施設に立ち入ることが出来ない状態になっています。そんな中でもオンブズマンは、外からの風を入れるという役割も担って、訪問を続けています。

(佐川美智子)

賛助会員 入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。
賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員 ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)
- ・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)

◇ご入会の方法： 郵便為替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号： 00210-9-75496

口座名義人： NPO 法人 S ネットオンブズマン

[発行：2022年6月]

